

日帰り前立腺生検をなぜ、クリニックで一生懸命行うのか？②

患者さん、治療病院にとって
何のメリットがあるのか

文 佐々木 裕

text by Hiroshi Sasaki

みなさん、こんにちは。今回は、前立腺がんの診断において生検がいかに重要であるかということをお話させていただきます。今回はその続きです。

日帰り生検をなぜクリニックで一生懸命行うのか。答えはシンプルで、患者さんやがん治療施設にとってメリットがあると考えているからです。患者さんにとっては、検査のクオリティーが担保され、合併症も許容範囲内、痛みが麻酔時のみであれば、日帰り検査を希望する方は多いと思います。入院準備、入院する手間、入院費用を減らせるなどのメリットがあります。さらに、病院にとってはクリニックでの日帰り生検は業務負担を軽減させることができる可能性があります。入院検査における医師の業務は、検査だけでなく、入院の計画・書類の作成、回診や管理業務、退院後のサマリー作成など多岐にわたります。

みなさん、こんにちは。今回は、前立腺がんの診断において生検がいかに重要であるかということをお話させていただきます。今回はその続きです。

日帰り生検をなぜクリニックで一生懸命行うのか。答えはシンプルで、患者さんやがん治療施設にとってメリットがあると考えているからです。患者さんにとっては、検査のクオリティーが担保され、合併症も許容範囲内、痛みが麻酔時のみであれば、日帰り検査を希望する方は多いと思います。入院準備、入院する手間、入院費用を減らせるなどのメリットがあります。さらに、病院にとってはクリニックでの日帰り生検は業務負担を軽減させることができる可能性があります。入院検査における医師の業務は、検査だけでなく、入院の計画・書類の作成、回診や管理業務、退院後のサマリー作成など多岐にわたります。

な中で、がん治療を行う施設がクリニックや連携施設に検査をアウトソーシングする、これは一つの改善策となるかもしれません。クリニックで生検を行う、がんが見つかった場合は、治療施設に逆紹介する、治療施設は生検で使っていたマンパワー、時間、手術室を他のために使用する、より多くの治療が可能になり業務効率が上昇する。これが理想でしょうか。当院でもこうしたがん治療施設から依頼された生検も行っています。患者さんのためだけでなく治療施設の先生方の負担軽減につながっていれば本望です。

最後に、こうした日帰り生検がもたらす、すべての患者さんに行えるわけではありません。リスクが高い患者さんや、完全に麻酔を行いたい場合は、病院で行う必要がありますのでよくご相談ください。さらに重要なことは、極力無駄な生検は行わないことです。腫瘍マーカーが高値ということだけを理由に生検する必要性は低いです。適応についても慎重にご検討ください。

クリニックにおいて生検を行うメリットは限られているかもしれませんが、これからも私は頑張って生検を行っていきます。生検を一生懸命サポートしてきている当クリニックのスタッフには心から感謝しています。

Profile

医療法人社団 SASAKI CLINIC 理事長
佐々木クリニック泌尿器科 芝大門 院長
慈恵医大 泌尿器科 非常勤講師

1973年生まれ。1999年、慈恵医大卒業。虎の門病院、東海大学、トロント大学を経て慈恵医大で長く前立腺がんの研究・診断・治療などを行ってきた。特に腹腔鏡・ロボット支援手術は2000例以上の執刀・指導経験を持つ。また、MRI/US 前立腺融合標的的生検の先進医療では、保険適用に尽力した。2022年11月、東京都港区に泌尿器科専門の佐々木クリニック泌尿器科芝大門を開院した。日帰りの前立腺生検や放射線治療前のスーサー挿入などにも力を入れている。



泌尿器科の患者さんが不安のない日々を過ごせるように